

授業の具体的展開例

〈話し合いによる集団解決〉

T : 各自で考えた内容を発表してもらいましょう。まずは、5.14 を 10 倍した数を考えましょう。

C : 5.14 は、0.01 が 514 集まった数です。5.14 を 10 倍することは、「0.01 が 514 こ」の 0.01 を 10 倍して「0.1 が 514 こ」と同じだと思います。

C : 整数の計算を例として、23 を 10 倍したら、230 になります。23 は、1 が 23 集まった数だから、1 を 10 倍して、10 を 23 集めた数の考え方と同じだと思います。だから、求める数 5.14 は 0.1 が 514 集まった数だと思います。

T : なるほど、よく考えましたね。次に 5.14 を 100 倍した数の求め方を発表してください。

C : 10 倍の 10 倍が 100 倍になるので、5.14 をまず 10 倍して、その数をさらに 10 倍すると求められると思います。

C : 10 倍した数の 51.4 のさらに 10 倍の大きさであると思います。

C : 10 倍したら、小数点が右へ 1 つ、100 倍したら、右へ 2 つ移ります。

T : なるほど、いいところに気が付きましたね。位が 1 つ上がると小数点が 1 つ右に移動しますね。



HOME

本時の流れへ

評価問題

「活用」の力を育てる評価の工夫

本時は、小数の 10 倍、100 倍した数を求める活動を通して、小数の十進構造について理解することがねらいである。

また、求められた数（答え）をもとの数と見比べ、各位の数字の位の上がり方にも気付かせ、小数も整数と同じ性質を持っていることに着目させることも必要である。

特に、相対的な見方の指導については、1、0.1、0.01 などの相関関係を数直線を利用して十分理解させる必要がある。また、自力解決の際も意見交流の場で、図などを使って、具体的に説明できるようにしておくことが必要である。

集団での意見交流の時間は、自分の考えがまとまった児童が、自分の考えを述べて、まだ自分の考えがまとまっていない児童の参考にさせていきたい。

また、自分の考えには必ず、理由や根拠を付けて発表するようにさせたい。

「活用」の力を育てる評価の視点

本時では、5.14 を 10 倍、100 倍した数を求めることを通して、自分の考えを相手に分かるように筋道を立てて表現させることにより、思考力、表現力を伸ばす。

「活用」の力を見取る具体的な類型として、

- ① 5.14 を 10 倍及び 100 倍した数を求める方法を具体的に説明できる。
- ② 5.14 を 10 倍または、100 倍した数を求める方法を具体的に説明できる。
- ③ 自力解決で解くことはできなかったが、説明を聞き、理解することができた。
- ④ 説明を聞いても理解することができない。

④の状態の児童には、十分な個別指導が必要である。①あるいは②の状態になるよう、授業後半の話し合いや形成的な評価問題の場面を充実させる。特に、練習問題を多く実施し、定着を図る必要がある。さらに、振り返りでは、学びを整理させるとともに、既習事項を活用できる問題設定や既習事項を使って説明する力を育てる。